

【匿名ダジャレ記事】

水の国から

(その4)

脚本：京機会員 水面外(みなもと) 走(そう)

音楽：みず すまし

演出：さーもふいじすと(M & A)

於：日本熱物性学会サロン特設水上ステージ

前号は簡単化のため二つの波を考えましたが、水面では、さまざまな波長の波が生じます。そこで、ある波長の周辺の波群を考えることができる場合、式(4)の極限として

$$c_g \equiv \frac{d\omega}{dk} \quad (6)$$

を波群の群速度として定義できます。

群速度は波群を足し合わせた振幅の移動速度ですから、波群のエネルギーが伝わる速度とも考えることができます。

(ミズスマシは、水を飲み、
一息入れる)

フーッ．まえおきが長くなってしまいました．ようやく本題に入ります．まず，ミズスマシが遊泳するとき，ミズスマシに対し相対的に静止した波ができるとはどういうことでしょうか．原理的には，ミズスマシを発生源として，無数の波が生じますが，それらの無数の波の

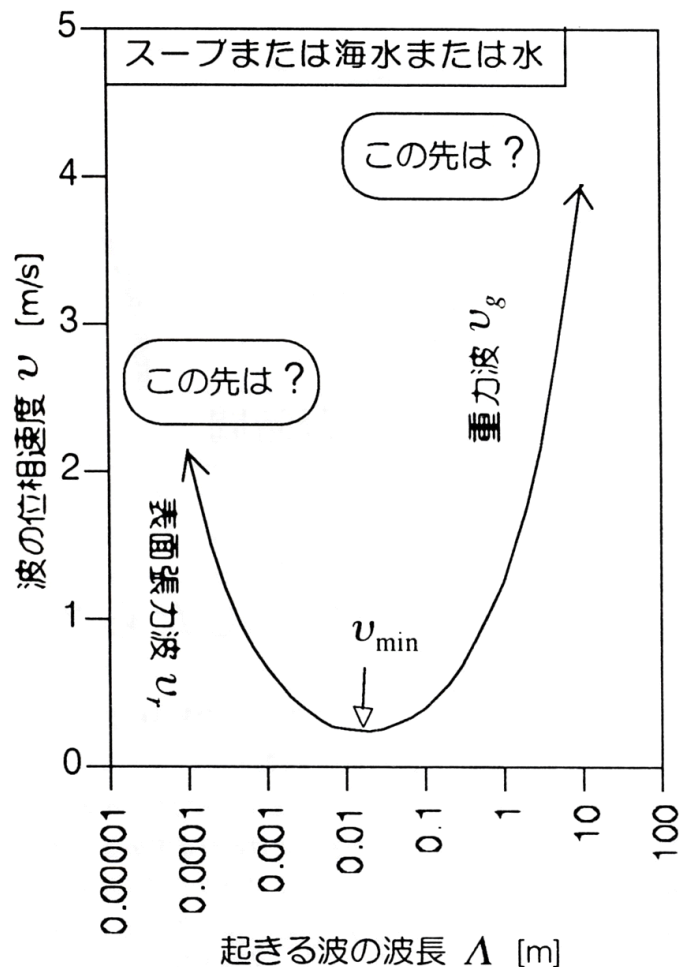


Fig. 7 スूपの波もよく考えてみると...[5]

うちで、ミズスマシの遊泳速度と等しい位相速度の波だけが定常的な波としてとどまり、そうでない波は上流あるいは下流に流れ去ります。さらに、波を維持するためのエネルギーは群速度で伝わりますから、生じる波の群速度と位相速度との大小関係により、波ができる位置が異なります。

ここで、実に5年半ぶりの、皆様には思い出の図[5]の登場です (Fig. 7)。思い出していただきましたでしょうか、表面張力によって主に支配される表面張力波と重力によって主に支配される重力波の二つがあることを。そして両者の境目となるところが、図中の波長 $C = \lambda_{min} = 1.7 \text{ cm}$ のところで、そのときの位相速度は $C = \lambda_{min} = 23 \text{ cm/s}$ で最小となることを。つまり、水面では位相速度が 23 cm/s より遅い波は存在しないのです。ですから、ミズスマシの遊泳速度が 23 cm/s 以上となって、はじめて位相速度＝遊泳速度の条件が満たされて、定常的に波が生じます。これが、最初のクイズの答えです。

次は、Fig. 5 の波模様の解説です。先ほどの長いまえおきの大部分はこのために必要だったのですが、実はまだ不十分なのです。なぜかと申しますと、Fig. 5を完全に理解するためには、水平方向に2次元的に広がった波を理解する必要がありますが、それは数式なしではとうてい不可能です[6, 9]。ですから、ここでは話を簡単にするために、ミズスマシの遊泳方向の直線上だけに対象を限定します。（逆に、ス

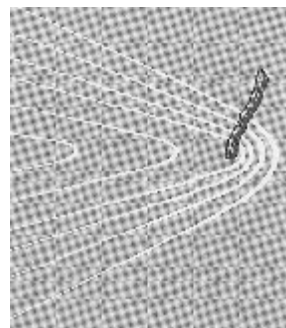


Fig. 5 川の中の木枝でできる波[4]

ケートリンクのようにミズスマシがぐるぐる回るときの複雑な波を解析したら、大論文になるかもしれませんよ。少なくとも長野県科学論文賞まちがいなし！)

ミズスマシが 23 cm/s より速く遊泳すると、Fig. 7 に示されるように、
 波長の短い表面張力波
 波長の長い重力波

の二つの波が立ちます。そして、それぞれの群速度 C_g を計算しますと、

$$\text{表面張力波} : c_g = 1.5c$$

$$\text{重力波} : c_g = 0.5c$$

となります。位相速度 c とは私達ミズスマシの遊泳速度に他なりませんから、私達に先行する波は群速度の大きい表面張力波、背後に取り残される波は群速度の小

さい重力波なのです。 ですから、前方は波の間隔が詰まっていて、後方は離れています。 さらにFig. 7からわかりますように、遊泳速度が速くなるほど、前方はさらに押しつまり、後方は逆に広がってゆきます。 Fig. 4のミズスマシの図は、図そのものが Fig. 5 に比べてかなり拡大されているか、あるいはミズスマシが速く遊泳しているため、後方の波が見えないようです。

鳴りやまぬカーテンコールにアンコール

ありがとうございます。ありがとうございます。

ミズスマシの分際にもかかわらず、調子にのって、生意気な講釈をしてしまいました。 今のクイズは私達が自ら作り出す波についてでしたが、私達にとって、もっと重要なことは、やって（反射して）くる波を受けとめて周囲の状況を知ることなんです。 私達にはエコーロケーション（反響位置決定法）機能があるのです [10, 11]. その波をとらえる触覚は、頭部に接した柄節の第2節に当たる梗節と鞭節の間にジョンストン器官（Fig. 8）があって、ちょっとした角度の違いが脳に伝わるようになっています。

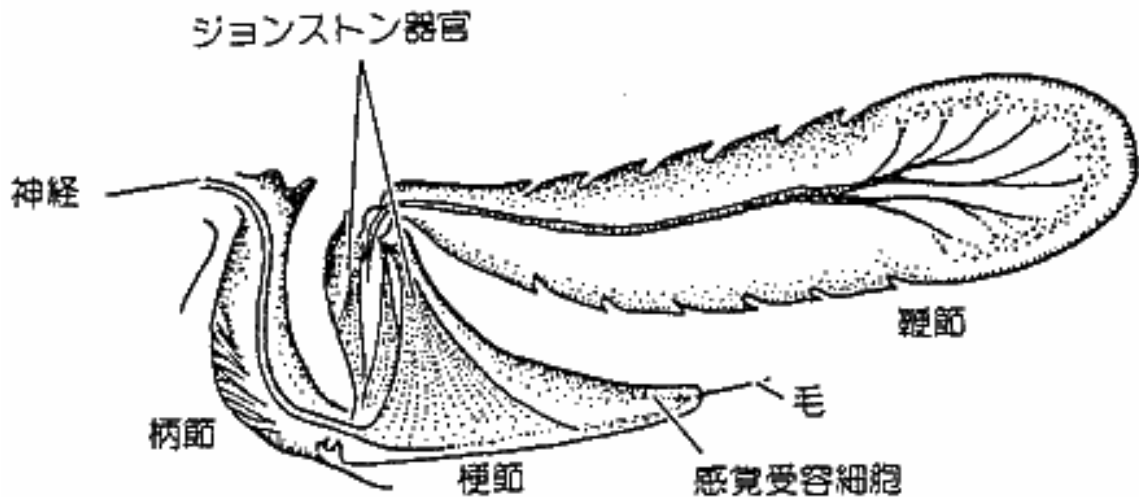


Fig. 8 ミズスマシの触覚[10]

それでは、アンコールといっっては僭越ですが、もう一点だけ、私達ミズスマシの自慢話をお許し下さい。 私達は水面という文字通り空中と水中との境界領域に暮らしております。 最近、人間様の世界でも境界領域の重要性がよく話題に上っているようですが、私達にとっては、このことは開びやく以来自明のことでした。 ですから、このとおり、私達は水面上を見る目一對に加え、水中専用の目を一對、合わせて二対持っています (Fig. 9) [10-12].

実は種明かししますと、先ほどから、水上ステージの上で、あたかも暗譜で演技していたかのようなすまし顔をしてまいりましたが、実はステージの底には台本が沈めてあって、それを水中専用の目で読んでいたのです。実力をみずましして見せて、ごめんなさい。

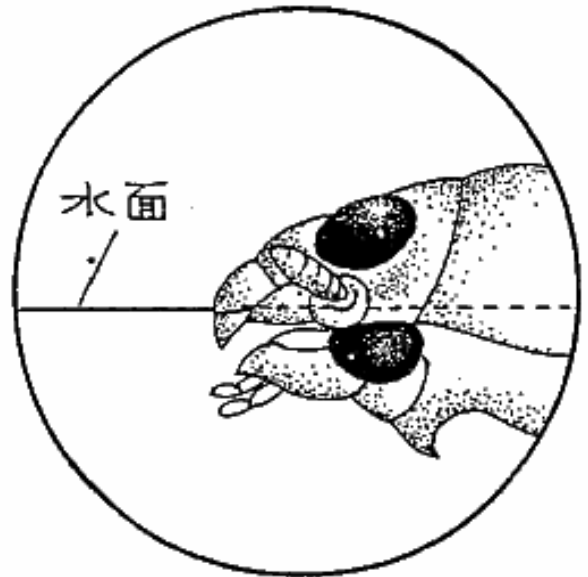


Fig. 9 ミズスマシの二対の目[11]

【参考文献】

- [6] H. Lamb; "Hydrodynamics" 6th edition p.468 (Cambridge Univ. Press)
(邦訳) ラム流体力学2 (今井功, 橋本英典共訳) 246頁 (東京図書, 1981).
- [7] 巽友正; 流体力学 95頁 (培風館, 1982).
- [8] 日本流体力学会編; 流体における波動 42頁 (朝倉書店, 1989).
- [9] 戸田盛和; 流体力学30講 152頁 (朝倉書店, 1994).
- [10] 矢島稔; 昆虫たちの「衣・食・住」学 20頁 (同文書院, 1990).
- [11] 矢島稔; カブトムシにはなぜ角がある?おもしろミステリアス昆虫記- 62頁
(PHP研究所, 1991).
- [12] 八木寛; エンジニアの昆虫学 94頁 (新潮社, 1994)

(つづく)

エネルギーのはなし 第2編 (その3)

藤川 卓爾 (昭和42年卒)

出典：「火力原子力発電」第60巻、第2号、2009-2、pp. 32～40
 発行： 火力原子力発電技術協会

3.2 化石燃料の節約

上記のように、現在の生活を支えているエネルギー資源(化石燃料、核燃料)がいずれも有限であるので、これらをできるだけ有効に使用する必要がある。そのためには、(その1)の 5.2 節で述べた発電効率を向上する必要がある。

図4に最初の蒸気機関から将来のトリプル複合発電プラントまでの動力や電気を発生するプラントの熱効率の変遷を示す4)。ワットがやかんの蓋が蒸気で浮き上がるのを見て蒸気機関を発明したといわれているが、ワットが行ったのはニューコメンの蒸気機関の熱効率の改良である。最初のニューコメンの蒸気機関の熱効率は0.5%程度であった。これをワットが4%にまで高めた。19世紀の末に近代的な蒸気タービンが発明されて、20世紀初頭では火力発電プラントの熱効率は

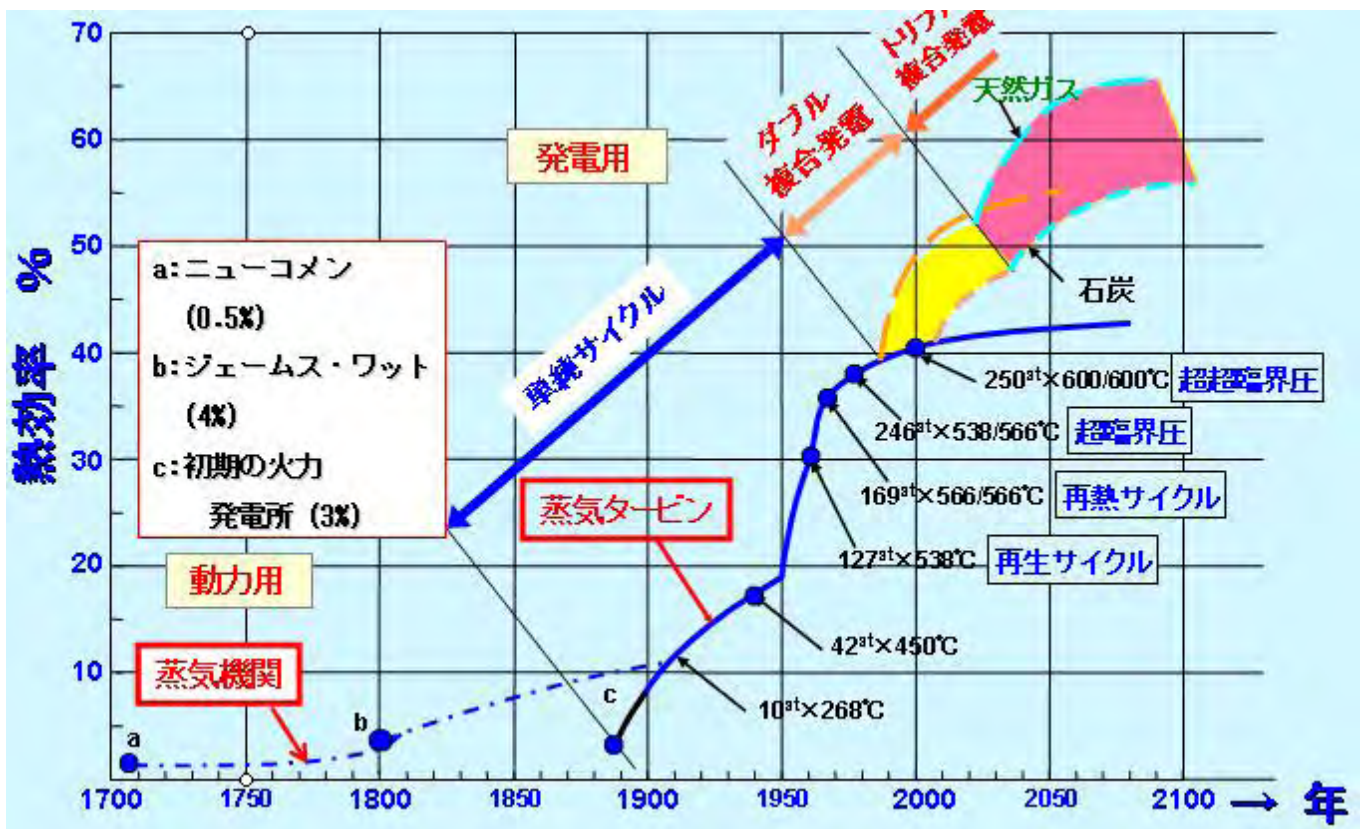


図4 熱効率の変遷

[出典] 金子 祥三「21世紀の火力発電技術」, 三菱重工業長崎造船所, (2004-3)

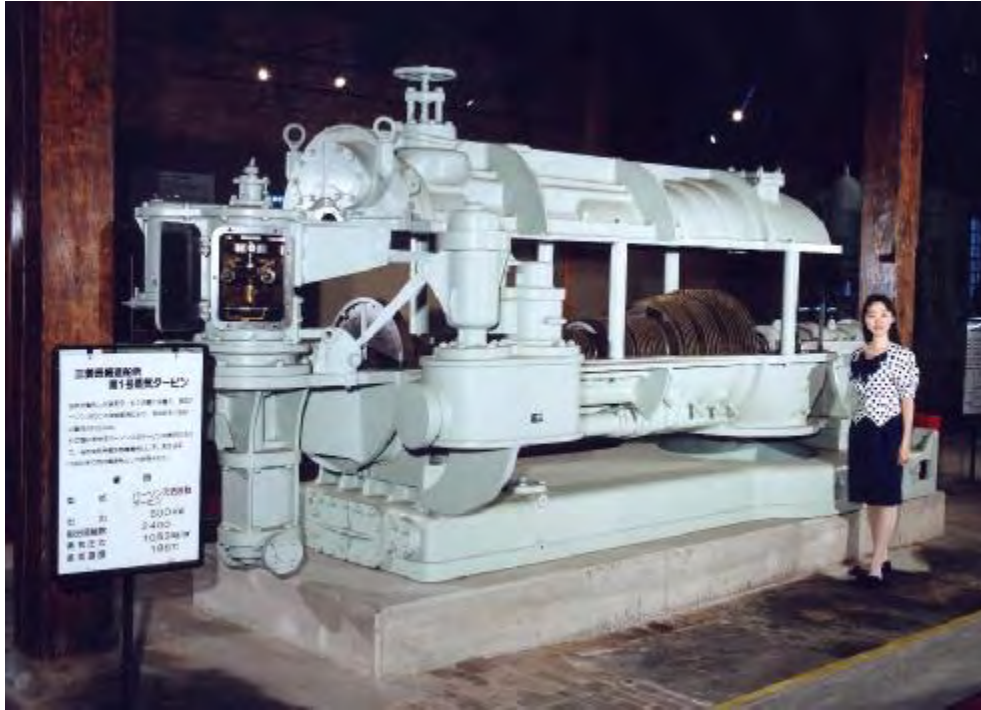


写真2 国産第1号蒸気タービン (提供：三菱重工業)

10%のレベルに達した。写真2に三菱重工業(株)長崎造船所の史料館に保存されている国産第1号蒸気タービンを示す。このタービンを用いた発電プラントの熱効率は約15%であったと推定される。20世紀は火力発電プラントの熱効率改善の世紀である。材料の開発と設計の進歩によって、タービン入口の蒸気条件(蒸気の圧力と温度)が、初期の10気圧(約1 MPa)、180°Cのレベルから、250気圧(約25 MPa)、600°Cのレベルまで向上した。また、タービンの途中から蒸気の一部を抜き出して、ボイラへ送る給水を加熱する再生サイクルや、タービンの高圧部分で仕事をして温度が下がった後、蒸気を一度ボイラに送り返して再加熱し、温度を上げて再びタービンで仕事をさせる再熱サイクルが適用されている。これらの改

善により、現在の単純サイクル(ボイラと蒸気タービン)発電プラントの熱効率は40%を超えるレベルに達している。

複合発電(コンバインドサイクル)プラントは、ガスタービンとその排ガスから熱回収するボイラと蒸気タービンを組み合わせたものであり、従来の火力発電プラントに比べて発電効率

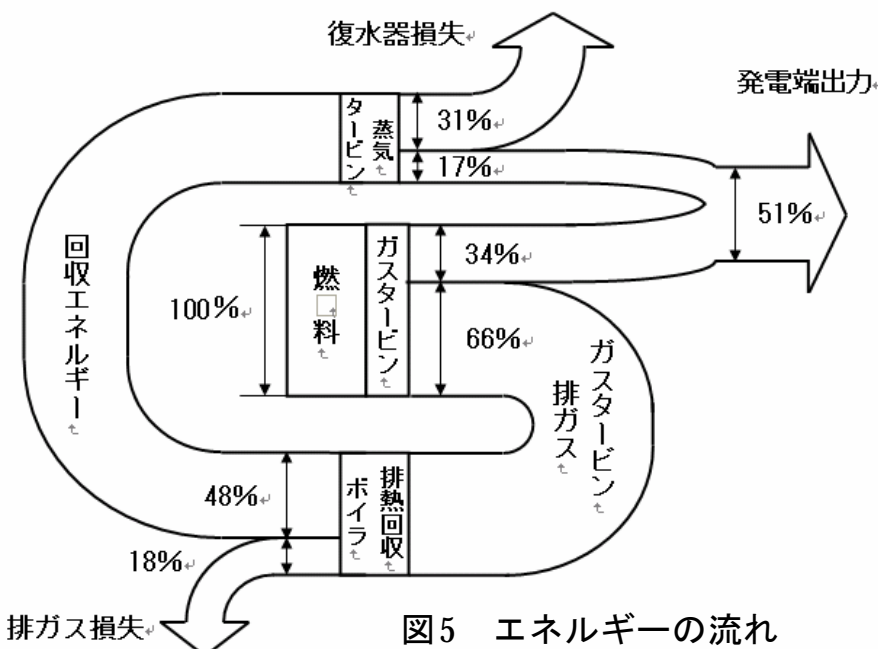




写真3 複合発電プラント (提供：三菱重工業)

が向上する。複合発電プラントのエネルギーの流れを図5に示す。ガスタービンをした排気のエネルギーは排熱回収ボイラによって蒸気として回収され、蒸気タービンを駆動する。すなわち、ガスタービンだけでは熱効率が低くても、排ガスから熱回収することにより蒸気タービンの出力だけ余分の電力が得られるので、プラント全体の熱効率が高くなり、最新鋭のプラントでは50%を超えるレベルとなる。

写真3に複合発電プラントの写真を示す。出力約18万kWのガスタービン2台に排熱回収ボイラ2台、蒸気タービン1台を付け加えることにより、約18万kWの蒸気タービン出力が得られる。ガスタービン2台だけの場合に比べて、追加の燃料なしに出力が1.5倍になるので、熱効率が1.5倍に向上する。

ガスタービンの燃料としては、天然ガスが適している。天然ガスの成分は、大部分がメタンであり、石油のように硫黄分を含まないので、ガスタービンや排熱回収ボイラの腐食の問題がない。現在は、中東やインドネシア、アラスカなどから、天然ガスを液化してLNG (Liquidized Natural Gas) タンカーで日本へ輸送している。メタンの分子式は CH_4 である。燃料中の炭素(C)と水素(H)の比は、炭素1に対して水素が4である。石炭は炭素1に対して水素は1程度、石油は炭素1に対して水素2程度である。これより、天然ガスを燃料として用いる場合は、石炭や石油を用いる場合に比べて、排気ガス中の二酸化炭素(CO_2)と水蒸気(H_2O)の比が小さくなる。

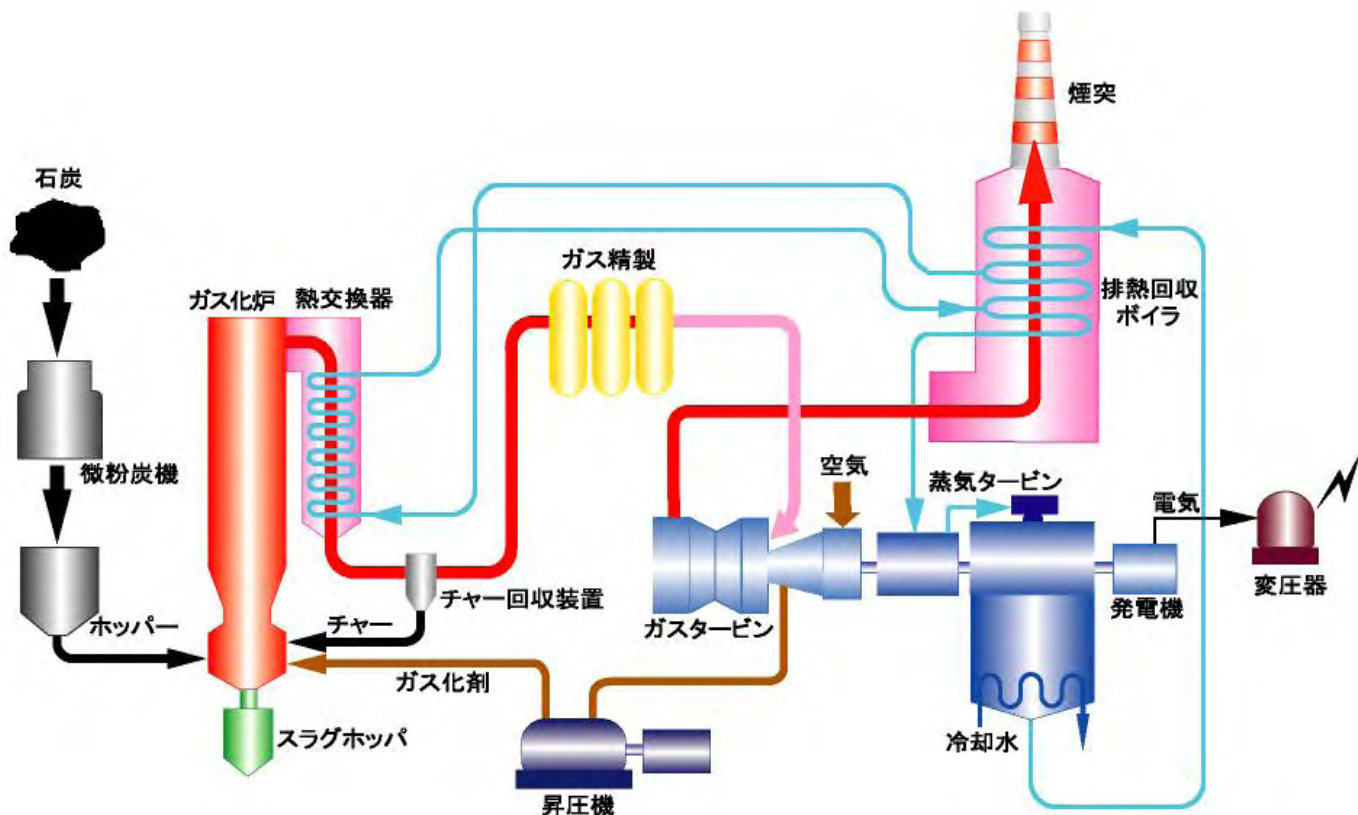


図6 IGCC 系統図

[出典] 金子 祥三「21世紀の火力発電技術」, 三菱重工業長崎造船所, (2004-3)

以上のように、天然ガス焚きの複合発電プラントは高効率であるので燃料の消費量が少ない上に、燃料の成分の面からもCO₂排出量が少なく、いいところ尽くめであるが、原料の天然ガスの資源量が有限である。

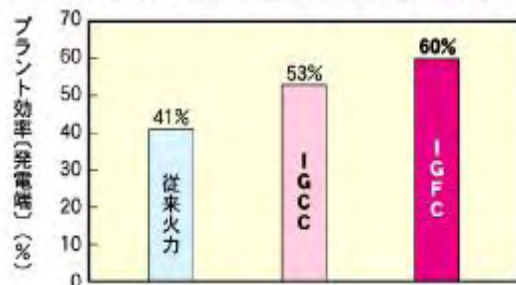
資源量が多い石炭を複合発電プラントの燃料に使用できればよいが、石炭は固体であるためそのままではガスタービンに使用できない。そこで、石炭をガス化してガスタービンの燃料に用いて複合発電プラントを運転する石炭ガス化複合発電プラント (IGCC: Integrated Coal Gasification Combined Cycle) が開発されている。

図 6 に IGCC の系統図を示す4)。 左半分が石炭をガス化するプラント、右半分が複合発電プラントである。

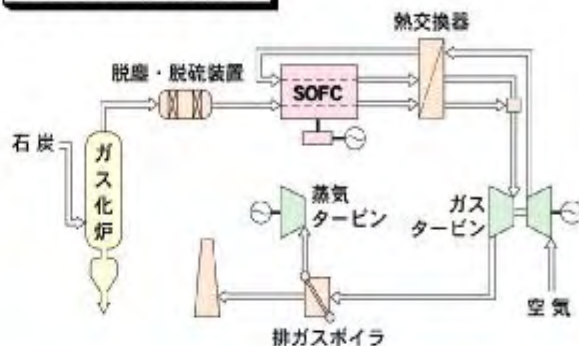
さらに、燃料電池を組み合わせ、先ずガス化した石炭を燃料電池に通して直接発電し、その排気をガスタービンに送って発電し、その排気を使用して排熱回収ボイラと蒸気タービンで発電する燃料電池石炭ガス化複合発電システム (IGFC: Integrated Gasification Fuel Cell Combined Cycle) の開発が行われている。通常の複合発電プラントをダブル複合発電と呼ぶのに対し、燃料電池複合発電プラン

発電端効率

IGCCにSOFCを組合せることで発電端効率60%達成可能

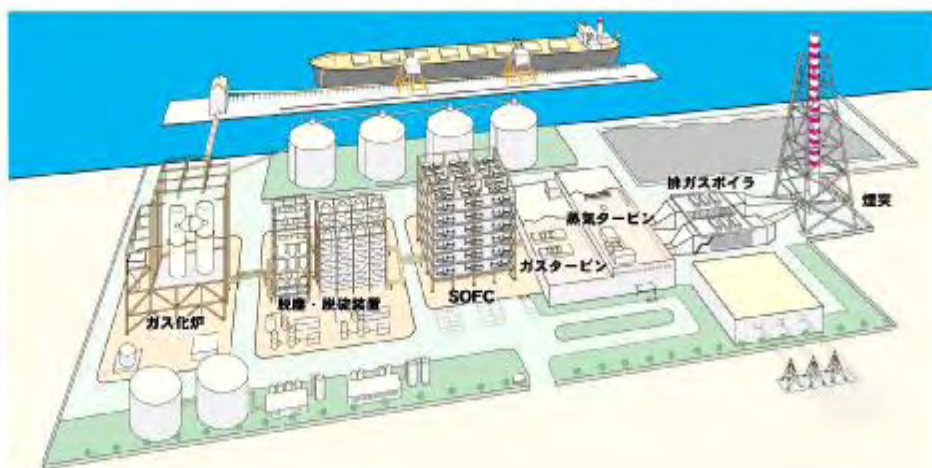


プラントシステム



IGFC 500MW

ガス化炉	2,300t/日
SOFC	200MW
ガスタービン	140MW
蒸気タービン	160MW
合計出力	500MW
発電端効率	60%



IGFC : Integrated Coal Gasification Fuel Cell
Combined Cycle

図7 大容量IGFCプラント (提供：三菱重工業)

トはトリプル複合発電と呼ばれる。 図7に大容量 IGFC プラントの完成予想図を示す。 大容量 IGFC プラントが開発されると、熱効率はさらに高まる。

<参考文献>

- 3) エネルギー工学総合研究所HP : <http://www.iae.or.jp/energyinfo/energydata/data1008.html>
- 4) 金子 祥三 : 21世紀の火力発電技術, 三菱重工業長崎造船所, (2004-3)

(つづく)

関西支部 第37回京機サロン

今回の京機サロンは、JAICシードキャピタル社長の佐々木美樹(ささき みき)氏をお招きして「これからの日本と産業育成について」の題目で講演をして頂きます。日本が将来にわたり維持可能な国家になるために進むべき方向について学ぶことの出来る絶好の機会になることと思います。

日時：平成21年9月16日(水) 18:15～19:15

場所：大阪弥生会館 (大阪駅より徒歩2分)

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目4-53

TEL：06-6373-1841 FAX：06-6371-0585

講演会後に懇親会(19:15～20:30)を開催します。

会費：卒業年次により傾斜会費とします。

～1979年	5,000円	1980年～1989年	4,000円
1990年～1999年	3,000円	2000年～	2,000円
学生	1,000円		

申し込みは、京機会のウェブサイト http://www.keikikai.jp/shibu/kansai_frame.html より
お願いします。

中部支部技術交流会および学生&OB懇親会のご案内

他支部会員のご参加も歓迎いたします。

■日時：平成21年9月17日(木) 13:45～20:30

■場所

1) 工場見学会

(株)デンソー 大安製作所 見学(三重県いなべ市大安町門前1530)

(JR名古屋駅からバスで移動)

2) 技術講演会 および 学生&OB懇親会

(株)デンソー 安城荘(愛知県安城市住吉町2-5-38)

■開催概要

1) 工場見学会(13:45～15:30)

(株)デンソー 大安製作所 エアバッグセンサ生産ライン

[2008年 精密工学会技術賞 受賞ライン]

注)申し訳ございませんが同業他社の方の工場見学への参加はご遠慮下さい

2) 技術講演会 および 学生&OB懇親会(17:30～20:30)

技術講演会:「地球温暖化問題に対する中部電力の取り組み」

中部電力(株)の取り組みと、火力部門の省エネ対策・CO2削減対策について

中部電力(株)火力部運営グループ課長 谷口 智昭様 (昭和60年卒)

■参加費：5,000円(懇親会費)

■参加申込：京機会HPからお願いします。 締切：9月10日（木）

<http://www.keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D185>

■集合場所、および集合時刻を、京機会HPにてご確認ください。

<http://www.keikikai.jp/shibu/cyubu/gijyutu.html>

■カジュアルな服装でお越し下さい

問い合わせ：中部支部事務局 牧野 誠

トヨタ自動車(株)車両企画室内 TEL: 0565-72-7151

九州支部行事のご案内

京機会九州支部では本年度の秋の行事を、下記のとおり10月31日(土)に北九州市において開催いたします。支部総会に続いて、北九州エコタウン&エネルギーパークの見学会、その後懇親会を実施します。多数のご出席をお待ちしております。ご家族や他支部の皆様のご参加も大歓迎です。

日時：平成21年10月31日(土) 場所：北九州市

第一部： 総会・見学会 北九州エコタウン&エネルギーパーク 13:00～16:40

13:00 JR戸畑駅前集合(南改札口前)

新日本製鐵(株)八幡製鐵所 総合センター見学室

総会 環境首都北九州の活動状況、新日本製鐵(株)の環境事業の取り組み

14:00 北九州エコタウンセンター

エコタウン・ひびき灘開発状況説明

15:00 白島石油備蓄基地展示場

PRプレゼンテーション(ビデオ)、展望台より石油備蓄基地、風力発電見学

15:35 北九州エコエナジー 見学

16:15 西日本ペットボトルリサイクル(株) 見学

第二部： 懇親会 料亭 金鍋 17:00～19:30 <http://www.kinnabe.com/>

〒808-0034 北九州市若松区本町2丁目4-22 TEL: 093-761-4531

懇親会費： 本人 \8,000.-、 家族 \5,000.-

総会・見学会ご参加の方は、JR戸畑駅前(南改札口前)に集合ください。(新日本製鐵(株)のバスで迎えに参ります。)

懇親会のみご参加の方は、直接会場においでください(若戸大橋西詰め)。

懇親会后、有志による二次会も計画しております。

宿泊ご希望の方はお知らせください。

参加申し込み方法：

京機会ホームページに登録するか、下記幹事宛にメールにてお申し込み願います。

第一部、第二部のみのご参加も歓迎いたしますが、その旨明記願います。

幹事： 京機会九州支部 事務局長

西日本ペットボトルリサイクル(株) 千々木 亨(S54)

TEL： 093-761-7733(携帯：090-5086-2695)、 E-Mail： chichiki@npr-k.co.jp

京機会S42年卒同期会 「竹生島クルーズ」 のご案内

学部卒業42年、修士卒業40年の今秋、全国の同期の合同行事「竹生島クルーズ」を計画いたしました。ふるってご参加ください。ご家族連れのご参加も大歓迎です。

1. 月日：平成21年11月21日(土)～22日(日)

2. 場所：琵琶湖、竹生島、長浜近辺

3. 計画概要：<11月21日(土)>

「竹生島クルーズ」 <http://www.biwakosen.co.jp/cruise/chikubushima.html>

14:00 琵琶湖汽船 今津港集合

14:20 今津港発 ～ 14:45 竹生島着 竹生島観光

15:50 竹生島発 ～ 16:20 長浜港着 (横断乗船料 \2,750.-/人)

「懇親会」

18:00 ～ 20:30 「住茂登」(長浜市大宮町10-1 TEL:0749-65-2588)

<http://sumimoto-kamp.com/> 天然鴨料理 (\6,300.-/人+飲み物代)

「宿泊」

①「グリーンホテルYes長浜駅前館」(長浜市南呉服町9-30 TEL:0749-65-2308

<http://www.gh-y.com/>)の2人部屋を6室12名予約済みです(うち5室はセミダブル:1泊朝食付き \10,500.-/2人)。狭いベッドはいやという方はシングルも

10室予約済みです(素泊まり \5,900.-/人)。宿泊を希望される方はその旨ご連絡ください。

②宿舎をご自分で手配していただいても結構です。

③懇親会終了後帰宅されても結構です。

<11月22日(日)>

「長浜近辺観光」

現時点で未確定ですが、長浜城、安土城跡、彦根城、近江八幡などの観光を考えております。皆様からのご提案をお待ちします。

4. 参加申し込み方法：

京機会ホームページに登録するか、下記幹事宛にメールにてお申し込み願います。「竹生島クルーズ」、「懇親会」のどちらかのみのご参加も歓迎いたします。その旨明記願います。

5. 幹事：学年代表幹事 藤川 卓爾(九州支部長) TEL：095-838-5173

Eメール：FUJIKAWA_Takuji@NiAS.ac.jp

携帯TEL：090-8057-1952

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

関西支部 第2回 MOHR 研究会 レポート

8月29日(土) 11:30-13:30、パナソニックさんで「パナソニック京機会」と名打って、本年度第2回の Management of Human Relation 研究会が下記プログラムの通り、開かれました。

司会 寺西、長崎、 受付 吉永、浅井田

11:30-11:35 MOHR主旨説明・・長崎さん

11:35-11:40 開会挨拶・・野村さん

11:40-11:45 京機会からの挨拶・・久保先生

11:45-11:55 乾杯のご発声 (ご卒業者へメッセージ)・・河田さん

12:00-12:15 京大東京拠点説明・・小寺先生

12:15-13:00 参加者自己紹介・・近況、仕事内容など(各自)

13:00-13:10 ご卒業者挨拶・・吉田さん

13:10-13:20 ご卒業者挨拶・・阿曾さん、プレゼンター吉永さん

13:25-13:30 閉会写真撮影



参加者一同、近況報告などしながら、やっぱり大切なのは人間関係を繋ぐネットワークだよな、次はもっと人数を集めてやろーよ、と大いに盛り上がりました。

Garden
中尾美園 + 若林静香展
2009年9月8日(火) ~ 9月13日(日)
12:00-19:00 (最終日は17:00まで)

Gallery i
〒905-0074
東山区駄国町南側584番地
TEL.075-525-3203

A map showing the location of Gallery i in Sakai, Japan. The map highlights the area around the gallery, including the main street (Daini-dori) and nearby landmarks like the Sakai Museum of Art and the Sakai City Hall. The gallery is located at the intersection of Daini-dori and the street leading to the Sakai Museum of Art.



執行部交代

先日行われた学年総会において京機学生執行部SMILE(以下SMILE)も代替わりを果たして2009年度の新執行部として新たなスタートを切りました。私達がこのように活動出来るのも京機会の皆様の協力があるのもとだと思っております。今回のSMILE-LETTERではSMILEの前会長による昨年の活動報告と新会長による会長挨拶についてお送りします。

2008年度の活動を振り返って

SMILE前会長 修士2年 所 哲哉



2008年度のSMILE会長を務めさせていただいた所です。SMILEは皆様の温かなご支援のもと、おかげさまで7年目を迎えることができました。そして先日の学生総会で新たなメンバーを迎え、2009年度として新たなスタートを切りました。昨年度のメンバーを代表しまして、ここに昨年度一年間の活動を振り返って総括をさせていただきたいと思えます。

2008年度は、8名のメンバーで運営をしてまいりました。中部工場見学(教室主催)に始まり、先輩と後輩の交流会(京機会主催)、ためになる講演会&忘年会、関東工場見学、インターンセミナーと様々なイベントを運営させていただきました。イベントの実施にあたりご協力を頂きました皆様、そしてご参加下さった皆様、本当にありがとうございました。ここにお礼を述べさせていただきます。

2008年度のSMILEの一番の特徴はそのメンバー構成にあったと思えます。従来のSMILEは主に修士一年生で構成されていましたが、2008年度は3名の学部生がSMILEメンバーとして活動していました。この3名の存在はSMILEや京機会にとって2つの大きな意味があったように思えます。1つは、学部生にとってSMILE及びSMILEのイベントがより身近なものになったということ、もう1つはそのようなイベントを作る上での原動力となったということです。

学部生にとって、修士学生が主催するイベントはどうしても遠いものになりがちです。しかし同級生がSMILEの一員であれば、きっと親近感が沸きイベントにも参加しやすくなるのではないかと思います。事実、2008年度のイベントでは学部

生の参加率も高く、3名の存在がSMILEの認知度の高め、学部生のイベント参加を促したように思います。

またSMILEメンバーに3名の学部生がいることで、イベントの企画の際に学部生の視点からの意見を取り入れることができました。この現役の学部生からのニーズは、単にイベント企画の際に修士学生、学部生ともに楽しめるような内容を考える上での助けになっただけでなく、学部生を対象としたイベントを企画する上で重要な役割を果たしました。実際に企画に参加して下さった多くの学部生の方の中には、イベント内容だけでなくスマイルによるイベント企画に興味を持って下さった方もいました。SMILEはイベントを通じて、学生と先輩方をつなぐことを目的に活動しています。このことは学年に関係なく、多くの学生にとって有意義なものだと思います。しかし、SMILEという組織・活動はようやく京機会、教室および学生の中で認知され始め、形作られてきたに過ぎません。先輩方と学生が交流できる場を、イベントを通じて提供するという目的を果たし続けるためにも、これからも多くの方々の助けをお借りすることで、SMILEがさらに幅広い学生に認知され、多くの人の役に立つ団体であり続けることを祈ります。

最後になりましたが、一年間の活動において至らない点があったかと思いますが、京機会事務局の段様、SMILEの活動を支援して下さった先生方をはじめ、最後まで温かくご指導くださった皆様、本当にありがとうございました。これからもSMILEをよろしくお願い申し上げます。

会長挨拶

SMILE新会長 修士1年 津田 慎也

この度、第七代SMILE会長を務めさせて頂くこととなりました津田慎也と申します。宜しくお願い致します。SMILEは発足以来、京機会の皆様ならびに先生方に支えて頂くことによっ

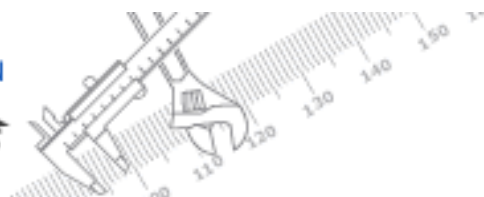


て、これまで活動を続けてくることができました。また、現在ではSMILEが京機会及び学内において広く認知されるようになり、年々活動の幅も広がってきております。改めてSMILEの活動を支援して頂いた皆様方に感謝の意を表したいと思いません。

しかし、我々SMILEメンバーとしましては、京機会の皆様にSMILEの活動内容についてまだまだ認識されていない部分があると感じるため、今年度は今以上に

SMILEという団体を学生や先生方に知ってもらいたい、活動の幅をさらに広げたい、そしてそれによってSMILEを京機会員にとってより身近な存在にしていきたいと思っております。そのためにも今年度は従来の工場見学や企業の方々をお呼びしての交流会だけではなく、スポーツ大会などのような京機会の皆様がより気軽に交流しあえるような企画も積極的に催していきたいと考えております。OBと学生、またはOB同士や学生同士など縦と横のつながりを通して、京機会の皆様がこれからの人生において非常に有益となる経験をしていただけるような場を提供していくことが、我々SMILEの存在意義だと思っております。

今年度のSMILEは修士1年生5名、学部4年生2名、3年生2名の計9名で活動しておりますが、そのうち修士1年生全てを含む6名が今年の春以降にSMILEに加わったメンバーです。そのため、私含めまだまだ知らない点が多く、今後至らない点も多々あると思っております。しかし、偉大な先輩方によって発足、発展されてこられたSMILEをより素晴らしいものにしていきたいという気持ちは皆同じです。上で述べた存在意義が達成できるように、一年間精一杯頑張っていきたい所存ですので、皆様方のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



大会まで残り2週間となりました。以下に、本年度大会の日程をお知らせ致します。日頃からご声援いただいている皆様に、一年の集大成の車輛をぜひとも御覧頂きたいと思っております。ご都合が宜しければ、ぜひ観戦にいらして下さい。

■第7回全日本学生フォーミュラ大会

—ものづくり・デザインコンペティション—

開催日：2009年9月9日（水）～12日（土）

会場：エコパ（小笠山総合運動公園・静岡県）

スケジュール：

9月9日（水） 車検－技術検査、チルト、騒音、ブレーキ

静的審査－ プレゼンテーション、コスト、デザイン

9月10日（木） 車検－技術検査、チルト、騒音、ブレーキ

動的審査－ アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス

9月11日（金） 車検－チルト、騒音、ブレーキ

動的審査－ エンデュランス

9月12日（土） 動的審査－ エンデュランス デザインファイナル

表彰式

開催場所、競技種目、スケジュールの詳細につきましては大会公式ホームページ
(<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>)を御覧下さい。

なお、観戦にいらっしゃる方はお手数ですが担当者

鯨岡 baleine@514.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

中澤 nrd08971@nifty.com

にご一報お願い致します。

メンバー一同、会場にて皆様のご来場、ご観戦を心よりお待ちしております。